

企画展 いしかわのおもてなし—屏風絵などの調度を中心に—



岸浪柳溪《富士に群鶴図》—「いしかわのおもてなし」より—

- 古九谷・再興九谷名品選【古美術】
- 特別陳列 天神画像と「文」の取り合わせ【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 空間との対話 戦後の立体造形【近現代彫刻】
- 優品選【近現代絵画・彫刻】
- 古に倣う 写しの魅力【近現代工芸】
 - 2月の企画展示室
 - 嶋崎 丞 館長 訃報
 - 2月の行事予定
 - アラカルト ただいま展示中

第2展示室【古美術】

古九谷・再興九谷名品選

2月15日(土)～3月19日(木) 会期中無休

制作期間が数十年と謎の多い古九谷ですが、少しずつその謎が解明されています。昨年開催した特別陳列「古九谷と加賀蒔絵の至宝」の副題を、「百万石大名の自負」としましたが、古九谷廃絶の大きな要因は、加賀藩三代藩主・前田利常の江戸幕府に対する挑戦的姿勢にあったことは間違いないようです。古九谷は特定の芸術家ではなく、様々な文化的背景を持つ人々が、共通の目的意識をもって制作にあたりました。そうした人々を鼓舞した人物が利常でした。初期の古九谷は、同じ意匠のものがないようです。ここにも、量産化によって表現における清新な活力が削がれないようにとの配慮が認められます。こうして、陳腐化することなく廃絶となった古九谷は、そ

の後加賀の地で色絵磁器を試みる人々の指針となりました。「再興九谷」と総称される色絵磁器の背後には、様々な挑戦や挫折がありました。しかし、その挑戦の精神こそが、古九谷プロジェクトに対する憧れや尊敬の念と一体のものであったと考えられます。それは、単に表現を模倣するというのではなく、新しいことを実現しようという気概です。こうした気概は、再興九谷諸窯はもちろん、現代の作家にも受け継がれています。故人となられた北出不二雄氏や、三代徳田八十吉氏が独自の観点から古九谷の研究を実践し、その成果を熱く語られたことが懐かしく思い出されます。それだけに、毎年の古九谷・再興九谷の展示には特別の感慨があります。



石川景文《色絵鳳凰図平鉢 古九谷》

第7・8・9展示室 企画展

いしかわのおもてなし 一屏風絵などの調度を中心に

1月4日(土)～2月11日(火・祝) 会期中無休

本展は「屏風祭」を念頭に置き、室町時代十六世紀から現代までの屏風を主体として、一部工芸作品を交えた構成となっています。新春の展覧会であることも考慮して、作品の選定には、吉祥的な画題や意匠を優先しました。展示室にはいると、改めてハレを演出する道具である屏風が醸し出す祝祭性を強く感じます。

今回は、古美術の区分を展示室ごとにやまと絵系、漢画系としましたが、たとえば余白を活かした叙情性は、日本の画家に共通する美意識であることが再認識されます。ある種の不完全性によって、鑑賞する人のイメージネーションを喚起する表現は、複数の人が同時に鑑賞するという屏風の特質に良く合致していると思います。オリンピック・イヤーを記念する最

初の展覧会として、日本の美意識を再認識することも、おもてなしです。

そして、日本のもう一つの美意識である装飾性にも着目したいと思います。実用性を越えた「かざり」の美意識は、縄文時代の土器や漆工品以来数千年にわたり日本の美意識の根幹でした。それが『法華経』の作善の教えと融合して、装飾することが人々を幸せにするとの信仰に結実していきました。本展の第九展示室に進むと、その意識は、直接的な信仰の有無にかかわらず、現代の造形活動にも継承されていると思います。華やかであっても慎ましく、力強くても威圧的ではない、そうした日本の美意識を、是非実感していただきたいと思えます。



《日月四季図》左隻

天神画像と「文」の取り合わせ

2月15日(土)~3月19日(木) 会期中無休

学芸員の眼

毎年展示する天神画像ですが、《胞輪天神画像》を掛ける際には、その怒気に少々たじろぎます。この怒りは、人間に対する不当な処遇や差別、そして冤罪を決して許さないとメッセージと解釈することができます。受験シーズンの直中であることも考慮して、受験生へのエールの意味もこめて天神画像を展示していますが、パワーハラスメントやモラルハラスメントに苦しむ社会人に対しても、天神画像は不当性を訴える勇気を与えてくれることでしょうか。菅原道真の生涯や死後の怨霊説話、北野天満宮の由来・霊験を描いた《北野天神縁起絵巻》には、天神の霊験が不遇な庶民にもおよぶことが強調されています。今回の展示を通して、改めて人権について考えてみたいと思います。

会期中の二月二十五日に「道真忌」を迎えることから、毎年この時期には天神画像を主体とした特集展示を行っています。今回は特別陳列「天神画像と『文』の取り合わせ」としました。天神は菅原道真の神号であり、学問・文芸の神として広く信仰されています。加賀藩主・前田家にとって、菅原道真は特別な存在でした。最初の理由は、道真が、藩祖・前田利家以来の家風である文武二道の理想的な体現者だったからです。そしてもう一つの理由は、加賀藩三代藩主・前田利常が先祖を菅原道真と定め、篤く天神を信仰したことです。天神は復讐の神でもあることを思い起こせば、利家以来の反徳川の立ち位置を、幕府に対する文化による挑戦を敢行することで表明した利常の思いは、様々な形で加賀藩歴代藩主に

に継承されました。

今回は、通例どおり道真配流の悲運や怒りを含意する天神画像のほか、《後撰和歌集》(浄弁本)を展示します。『後撰和歌集』は、『古今和歌集』に続く、平安時代第二の勅撰和歌集で、九五一年に村上天皇の宣旨により、藤原伊尹を別当として、清原元輔、源順らを撰者として撰集が行われました。本書を今回展示するのは、そこに菅原道真の歌が三首撰ばれているからです。今回は、さくら花ぬしをわすれぬものならば吹き来む風に言伝てはせよの箇所を展示します。大宰府配流が決まり、自邸を去る折に道真が前栽の桜に結びつけた歌として広く知られているこの歌は、天神画像と深く呼応します。

第3・6展示室【近現代絵画・彫刻】

優品選

2月15日(土)～3月19日(木) 会期中無休

今回、洋画部門では高光一也《鏡の前の裸婦》など、油彩画の秀作を紹介します。油彩絵具の不透明性を生かした独自の筆致による、人物の内面をも写し出すような人物描写は高光絵画の真骨頂であると言えます。また、森本仁平《タンクの多い工場》は、森本が長い教員生活を終えて画業に専念する六十歳以降にみられる写実指向の作品です。森本の「通俗であろうと、日常的な視野の中で事実に即した実感としての詩情を大切にしたい」との言葉にみられるように、丹念な描写による広大な空気感と静寂で敬虔な絵画表現が特徴的です。

彫刻部門では、吉田三郎の作品を中心に紹介します。吉田は学生時代、医療用の人体模型制作のアルバイトをしていたので、筋肉の付き方や骨格の構造などを熟知していました。例えば《雲に漂う》では、生き生きとした躍動感のある肉付きがブロンズで表現されていません。

日本画部門からは、春を待つ季節感をテーマとした作品を紹介します。曲子光男《春雪》には、ようやく春の兆しが訪れた山中に、春の雪が舞う様子が描かれています。また、平桜和正《待春の浜》は海風にじっと耐えて春を待つ浜辺の様子に、作者の来し方が窺えるような作品です。



曲子光男《春雪》

第4展示室【近現代彫刻】

空間との対話 戦後の立体造形

2月15日(土)～3月19日(木) 会期中無休

本特集では、様々な形をした「立体造形」作品を中心に紹介します。戦前の日本の彫刻作品は、人体中心の写実ないし具象的な作品が多く制作され、それらの作品は近代彫刻の父と謳われるロダンなどの影響をうけたものが少なくありません。当館所蔵の作家でいえば、吉田三郎はロダンの影響を強く受け、写実的な表現とともに精神性の高い作品を手がけています。

戦後になり、海外の美術との交流や、様々な情報が流入してくるなかで、彫刻界にも大きな変化が起きます。例えば、作品の対象となるモデルを写実的に表現する作風から解放され、抽象的な表現方法で制作する作品が多く造られるようになります。それにと

もない、使用される素材も従来の木、石、ブロンズだけでなく、鉄、ステンレス、アルミニウム、セメント、プラスチックなど多種多様な材料が加わり、表現や作品のイメージに合わせて使い分けられていきます。

そして様々な形で表現された作品は、美術館などの建築物のなかだけでなく、広場や公園、街の中などあらゆる公共空間に設置され、戦後日本の都市デザインを考えるための一つの柱となりました。

これらの「立体造形」は様々な角度から鑑賞し、色々な思いを感じることができるよう。展示室という空間と立体造形作品との対話をぜひ楽しんでいただきたいと思えます。



宮崎豊治《身辺モデル—類似化—》

第7展示室

令和元年度 金沢大学学校教育学類 美術教育専修卒業制作展

2月14日(金)～17日(月) 会期中無休

◇入場無料

◇連絡先／金沢市角間町 金沢大学

人間社会学域学校教育学類 江藤望

電話：〇七六一二六四一五五八二

絵画、彫刻、デザイン、美術科教育の各分野の学士課程による令和元年度卒業作品を展示します。これは、主に教職を目指す学生が、自らの学生生活の総決算として地道に努力を重ね、且つ創造的に研究し制作して完成させたものです。未熟ではございますが是非ご高覧下さい。そして忌憚のないご批評、ご助言をお願いします。なお、在科生の作品も展示しますので、併せてご高覧下さいますようお願いいたします。

第5展示室【近現代工芸】

古に倣う 写しの魅力

2月15日(土)～3月19日(木) 会期中無休

古に倣う、すなわち倣古とは、過去に作られたものに敬意を表し、その表現や精神に倣った作品を制作することです。近現代の工芸作品のなかにも、そのようにして作られた倣古作品が数多くあり、それらは写しとも呼ばれます。

ひとくちに倣古といっても、本歌の作品と見紛うほど精密に写されたものから、本歌に独自の表現を加えたものまで幅広くあります。また、求めに応じて作られたもの、自らの技術を磨くために作られたもの、本歌に靈感を得て生まれたものなど、制作の状況も様々です。

本展示では、当館コレクションの倣古作品をとおりして、作品を写すとはどういうことなのかをとらえなおしてみたいと思います。

陶磁では永楽和全《色絵金彩双龍文万曆赤絵写合子》とその本歌に近い《五彩龍文透彫合子》、初代須田菁華《色絵人物図古九谷写平鉢》とその本歌である《色絵軍扇散花鳥人物図平鉢》(石川県立工業高等学校蔵)を展示します。写しの名手として知られる永楽和全や初代須田菁華のわざをご覧ください。染織からは、渥美新一郎《友禪茶鼠地雉流水草花文訪問着「野分」》と羽田登喜男《友禪白地雉流水草花文振袖「萌え」》をご紹介します。いずれも江戸時代中期の《黄絹縮地春の草花に雉子文様友禪染小袖》(丸紅株式会社蔵)を写しており、本歌の写真パネルと並べて展示します。また刀剣から隅谷正峯《大身槍 日本号写》などを含め、合計で約四十作品を展示する予定です。



永楽和全 《色絵金彩双龍文万曆赤絵写合子》

第8・9展示室

第26回 北陸国展

2月14日(金)～18日(火) 会期中無休

◇入場無料

◇後援／北國新聞社、テレビ金沢

◇連絡先／横江昌人(北陸国展事務局)

能美市秋常町二五〇一

北陸国展は北陸在住の国展出品者で構成され、今年で二十六回展となりました。国画会(国展)は昨年九十三回を迎え、毎年春に国立新美術館で開催される歴史ある公募団体です。草創期の絵画部には梅原龍三郎、香月泰男らが、写真部には野島康三、木村伊兵衛らがいました。北陸国展での成果が毎年、国展での受賞者輩出につながっています。今回は絵画部二十名、写真部二十二名が力作、大作を発表します。是非ご高覧下さいますようお願い申し上げます。

第8展示室

第4回 風の会

2月28日(金)～3月3日(火) 会期中無休

◇入場無料

◇連絡先／江守マリ子 金沢市長町一丁目三一三六

電話：〇七六一二二一一三五八八

辰村浩子

電話：〇九〇一三二九七七一五三六一

春の風にフワリと浮かぶ雲。タンポポの綿毛がフワフワと飛び、モンシロチョウがヒラヒラと舞う。夏の河岸では飛び交うホタルの群れ。頬をなでるこちよい風等を考えている時に、ふう(風)を思い付き、また、全員の気持ちが一一致しました。自由で新しい発想による絵画制作を目的として二〇一六年より石川県在住の作家をはじめ、金沢美術工芸大学の学生も含めたメンバーで作品発表の機会を設けています。抽象、具象を問わず、それぞれの視点や表現が個性豊かに現れていることと思います。ぜひこの機会にご覧いただき、ご指導いただければ幸いです。

第7・8・9展示室

金沢学院大学芸術学部 第17回 卒業研究制作展

2月21日(金)～25日(火) 会期中無休

今年、学科統合した芸術学部はじめての卒業制作展になります。芸術学科は絵画、造形、デザイン、映像、メディアの五分野の学びを実践しており、四年間の集大成としてその成果を発表いたします。作品を通して、一人ひとりの表現や解釈の多様性に今日の若者の感性や関心の傾向を読み取ることができることと思います。どうかご覧いただき、忌憚のないご批評ご感想をお伝え下さいますようお願い申し上げます。

◇入場無料

◇連絡先／金沢市末町一〇

金沢学院大学美術文化学部担当受付

電話：〇七六一二二九一八九四一

本校芸術コース美術専攻は「美術系大学への進学に対応した実技力の育成」を目標に創立以来、美術・基本の定着と高い造形表現力の育成を行ってまいりました。卒業生は金沢美術工芸大学をはじめ全国の美術大学・芸術大学・教育系大学へと進学し、絵画、彫刻、工芸、デザイン、映像、アニメーション、美術教育界など、地元石川のみならず全国、さらには海外において美術文化や美術教育の担い手として活躍しております。この展覧会は、今年度卒業する三十二名が日本画、油絵、彫刻、デザインの四つの専科での学習成果を展示するものです。この機会を通して、本校美術専攻生徒と本校美術教育の一層の成長、発展への励みにしたいと考えております。

◇入場無料

昭和五十一年に認定された石川県指定無形文化財保持団体九谷焼技術保存会が、技術保存・発展向上を図るための事業として毎年行っている公募展で、入選作並びに九谷焼技術保存会会員の作品を一堂のものと展示します。

◇観覧料／一般：三五〇円(二八〇円)

大学生：二八〇円(二二〇円)

高校生以下無料

※()内は二十名以上の団体料金。当館友の会会員は、会員証の提示により団体料金になります。

◇連絡先／能美市泉台町南十三番地 石川県九谷会

館内 九谷焼技術保存会事務局

電話：〇七六一一五七一〇一二五

第7展示室

第43回 伝統九谷焼工芸展

2月28日(金)～3月8日(日) 会期中無休

第9展示室

石川県立金沢辰巳丘高等学校 第32回芸術コース美術専攻卒業作品展

2月28日(金)～3月2日(月) 会期中無休

嶋崎 丞 館長 訃報



昨年十二月十九日、館長 嶋崎丞が亡くなりました。金沢市内で開かれた会合の席で意識を失い、病院に搬送されましたがそのまま息をひきとりました。享年八十七歳でした。昭和三十四年、旧石川県美術館の開設準備室に県職員として入庁し、以来六十年間にわたって美術館に関わってきました。

昭和五十八年の現美術館の建設にも携わり、平成三年からは二十八年間、館長を務めてきました。公立では全国最高齢の美術館長として知られ、県七尾美術館長、県文化財保存修復工房の所長も兼務して、石川の美術の振興・発展に貢献してきた生涯でした。

突然の訃報であったにもかかわらず、葬儀には多くの皆さまにご参列いただきました。嶋崎館長のお人柄、交遊の広さをあらためて感じました。石川県からは「石川県文化功労賞」がご遺族に贈られ、その功績をたたえました。

美術館では、これまで同様に地方色豊かな美術館をめざし、石川らしさを追求した嶋崎館長の意志を継ぎ、これからもその実現に努力してまいりたいと思っています。

これまで嶋崎館長にいただきましたご厚誼に感謝するとともに、今後ともご理解・ご支援をいただきましたたくお願いいたします。

※一月一日以降は館長事務取扱 田中新太郎(石川県教育長)

副館長 宮崎高裕、谷口出の新体制となります

2月の行事予定

■展示室でスケッチGO!	10時～11時30分 1階企画展示室
8日(土)	展示室でお気に入りの作品を、磁気式ボードを使ってスケッチ！※参加者は観覧料を団体料金に割引。
■展示解説「寒糊炊きと修復」	石川県文化財保存修復工房見学スペース
8日(土)	「寒糊炊き」を中心に、文化財修復と糊に関して、実物や映像を用いて解説します。①10時～10時30分 ②14時～14時30分
■映像ギャラリー	14時30分～16時 美術館ホール 無料
2日(日)	「日本の美 日本人の原風景」(26分) 「極める・日本の美と心 本法寺」(26分)
9日(日)	「日本の美 滲みの感覚」(24分) 「シリーズ北陸の工芸作家 石川の匠たち 人間国宝 寺井直次」(25分)

※2月1日と29日に予定されていた土曜講座は、諸般の事情により開催しないこととなりました。ご了承ください。

友の会 次年度申込案内

令和二年度も友の会会員を募集します。例年、二月号に会員募集情報の掲載、手続き書類の同封をおこなっていましたが、今年度からは次号(三月・四三七号)で募集情報と手続き書類をお届けいたします。

◇会費／二、〇〇〇円

◇受付期間／令和二年三月一日(日)より開始

◇会員証の有効期限／令和二年四月一日～令和三年三月三十一日

《鏡の前の裸婦》かがみのまえのらふ

縦 115.8cm 横 89.6cm 昭和26年(1951)

高光一也 たかみつ・かすや

明治40年(1907)～昭和61年(1986)



高光一也は明治四十年に石川県石川郡潟津村字北間(現在の金沢市北間町)に高光大船の長男として生まれました。父である大船は真宗大谷派専称寺住職で、明治の親鸞と称された清沢満之の精神主義運動を先導した人物です。大正十年に石川県立工業学校校案絵画科に入学し、武藤直信や澤村昌勝に図案と絵画を学び、金沢市森山町尋常高等小学校に勤務した後、本格的に油彩画に取り組みようになります。昭和十五年から二年間、母校で教鞭をとり文展・日展を中心に作品を出品。油彩の不透明性を生かした独自の筆致により、モチーフの内面を映し出すような人物画や風景画を数多く描きました。

昭和二十年には、旧北陸海軍館を改装して開館した石川県美術館を会場として開催された第一回現代美術展の開催準備委員に、石川県立工業学校で教鞭をとった高橋介州や同校図案絵画科の後輩である長谷川八十、浅田二郎らとともに就任。戦後石川県で初めて開催された総合美術展を成功に導きました。その翌年には、長谷川、浅田らとともに金沢美術工芸専門学校の開校運動に加わり、専門学校令の廃止により短期大学に昇格した金沢美術工芸短期大学では助教教授に、昭和三十年に開学した金沢美術工芸大学では教授を務めました。

本作は、高光が石川県の美術工芸界発展のために奔走した時期に描いた作品です。作品からは、理想とする絵画様式の創造を目指し錬磨する、高光の真摯な制作態度がみてとれます。

次回の展覧会

前田育徳会
尊経閣文庫分館

第2展示室

婚礼調度と遊戯具

加賀文化の粹 I

会期:3月24日(火)～4月13日(月)

1F企画展示室(7・8・9展示室)
2Fコレクション展示室(3・4・5・6展示室)

第76回 現代美術展—洋画・工芸・写真—

会期:3月27日(金)～4月13日(月)

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

2月3日は第1月曜日より

コレクション展示室無料の日

2月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

2月の休館日は
12日(水)・13日(木)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎ 092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索石川県立美術館だより
第436号(毎月発行)
2020年2月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishiki.pref.ishikawa.jp/>石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。